



はばたけ海へ！ATC

## 「第2回 ATC ドラゴンボート大会」

### 【 開催要項・参加申込書 】

大阪・南港のATC（アジア太平洋トレードセンター）港で、今年は夏休みの8月8日（土）、9日（日）の2日間にわたって「第2回南港ATCドラゴンボート大会」を特設200mコースで開催します。

8月8日（土）は、「ドラゴンボート親子体験乗船会+公式練習会」と銘打って、小学生以上を対象とした体験会と翌日参加チームの公式練習会を同時開催いたします。

8月9日（日）は、「第2回 ATC ドラゴンボート大会+親子体験乗船会」を実施。ATC ドラゴンボート大会では、ドラゴン経験3年以上のエキスパートクラスと3年未満のチャレンジクラスに分かれてそれぞれ12チームが激戦を繰り広げます。尚、3位までの入賞チームには「豪華賞品」も取り揃えていますので、奮ってご参加下さい！

#### 記

◇大会名：「第2回 ATC ドラゴンボート大会」

◇開催日：平成27年8月8日（土）—9日（日）

◇コース：ATC港 特設直線200mコース

（交通：大阪地下鉄中央線「本町」からコスモスクエア経由で約18分、「トレードセンター前駅」下車すぐ）

★8月8日（土）親子体験会・公式練習

：体験会 小学生以上、1回45分、参加費500円/人、11:00-14:45

※当日会場で受付 記念品付き

：練習会 参加チーム、1回1時間、参加費3,000円、10:30-16:00

★8月9日（日）親子体験乗船会

：体験会 小学生以上、1回45分、参加費500円/人、12:00-、14:30-

※当日会場で受付 記念品付き

★8月9日(日) ATC ドラゴンボート大会

①エキスパート・クラス (ドラゴン経験3年以上)

②チャレンジ・クラス (ドラゴン経験3年未満、女子、50歳以上、地元、初参加)

◇参加資格：小学生以上の健康な男女 (ローカルルール)

◇編成：1チーム12人で編成 (太鼓手1, 舵取り1, 漕手10人) ※補欠追加は1人3千円

◇競技方法：トーナメント戦 (予選、敗者復活、準決勝、決勝)

◇ルール：2015年度一般社団法人日本ドラゴンボート協会の競技規則による

◇参加料：①エキスパート・クラス 1チーム 40,000円 先着12チーム募集

②チャレンジ・クラス 1チーム 25,000円 先着12チーム募集

※最少漕ぎ手8人で編成。

◇賞品

・エキスパート優勝

「パンスタークルーズ賞」：パンスタードリーム デラックススイートルームで行く  
南港 釜山 往復乗船券 (ペア10万円相当) 2組 ※副賞あり

・エキスパート準優勝

「パンスタークルーズ賞」：パンスタードリーム デラックススイートルームで行く  
南港 釜山 往復乗船券 (ペア10万円相当) 1組 ※副賞あり

・エキスパート3位

「パンスタークルーズ賞」：パンスタードリーム デラックススイートルームで行く  
南港 釜山 往復乗船券 (ペア10万円相当) 1組 ※副賞あり

・チャレンジ優勝

「パンスタークルーズ賞」：パンスタードリーム デラックススイートルームで行く  
南港 釜山 往復乗船券 (ペア10万円相当) 1組 ※副賞あり

・チャレンジ特別賞

「フェリーさんふらわあ賞」：大阪 別府 往復乗車券 (弾丸フェリー) 1組  
副賞あり

・チャレンジ特別賞

「フェリーさんふらわあ賞」：大阪 別府 往復乗車券 (弾丸フェリー) 1組  
副賞あり

◇レース組み合わせ・監督会議

予選のレース組み合わせは、JDBA事務局で行い事務連絡者に事前にメールでお伝えいたします。また、競技上の注意は、当日、開会式で行いますので、全員ご参加ください。

◇申込み方法 添付の参加申込書に必要事項を記載の上、参加料を同封の上、現金書留で下記まで郵送してください。

〒556-8663 大阪市浪速区湊町2-1-57

(一社) 日本ドラゴンボート協会「第2回ATCドラゴンボート大会」係

※申込み締切り 平成26年7月24日(金) 必着

・大会のお問い合わせ

アジア太平洋トレードセンター株式会社

事業統括本部 販売宣伝

☎06-6615-5230

・競技のお問い合わせ

(一社) 日本ドラゴンボート協会

e-mail:t.tani@sankei.co.jp (谷宛て)、

☎06-6633-5005 (平日9時半-5時半)

・注意

参加者の安全上、大会開催が不可能な場合は大会を中止します。その場合、参加料の返金はできませんので、了承の上、ご参加ください。

■主催：アジア太平洋トレードセンター株式会社

■後援：産経新聞社、サンケイスポーツほか

■主管：(一社) 日本ドラゴンボート協会、大阪府ドラゴンボート協会

■協賛：各社

## 第2回南港ATCドラゴンボート大会 参加申込書

各参加チームメンバーは、レース前、中、後の事故、怪我について各自でその責任を負い、主催者ほか関係各団体に一切異議を唱えないことを約束して大会の参加を申し込みます。主催者はレース中の事故に対して応急手当以上の責任を負わないので、各自事前に医師の診断を受診いたします。

◇チーム名 (12文字以内) : \_\_\_\_\_

◇出場種目 (①か②に○印を付けてください。②の場合はカッコにも○印を付けてください)

①エキスパート・クラス (ドラゴン経験3年以上)

②チャレンジ・クラス (ドラゴン経験3年未満、女子、50歳以上、地元、初参加)

○事務連絡者 \_\_\_\_\_ 住所: 〒 \_\_\_\_\_

◎事務連絡者 e-mail (必須) : \_\_\_\_\_ 携帯 \_\_\_\_\_

・監督 \_\_\_\_\_ 印 住所: 〒 \_\_\_\_\_ 携帯 \_\_\_\_\_

・8日練習会に参加 (する・しない) ※練習時間は追ってメールで連絡します・舵取り (必要・不要)

No		氏名	性	年齢	住所	緊急連絡先
1	太鼓					
2	舵取					
3	漕手					
4	漕手					
5	漕手					
6	漕手					
7	漕手					
8	漕手					
9	漕手					
10	漕手					
11	漕手					
12	漕手					
13	追加	1人3千円必要				
14	追加	1人3千円必要				
15	追加	1人3千円必要				

※初心者チームは、安全上舵取りを日本ドラゴンボート協会より派遣します。

※大会中の飲酒は厳禁です。ペースメーカー装着の方は安全上、参加できません。

★チーム紹介 (100字まで)

---



---



---



---

Google

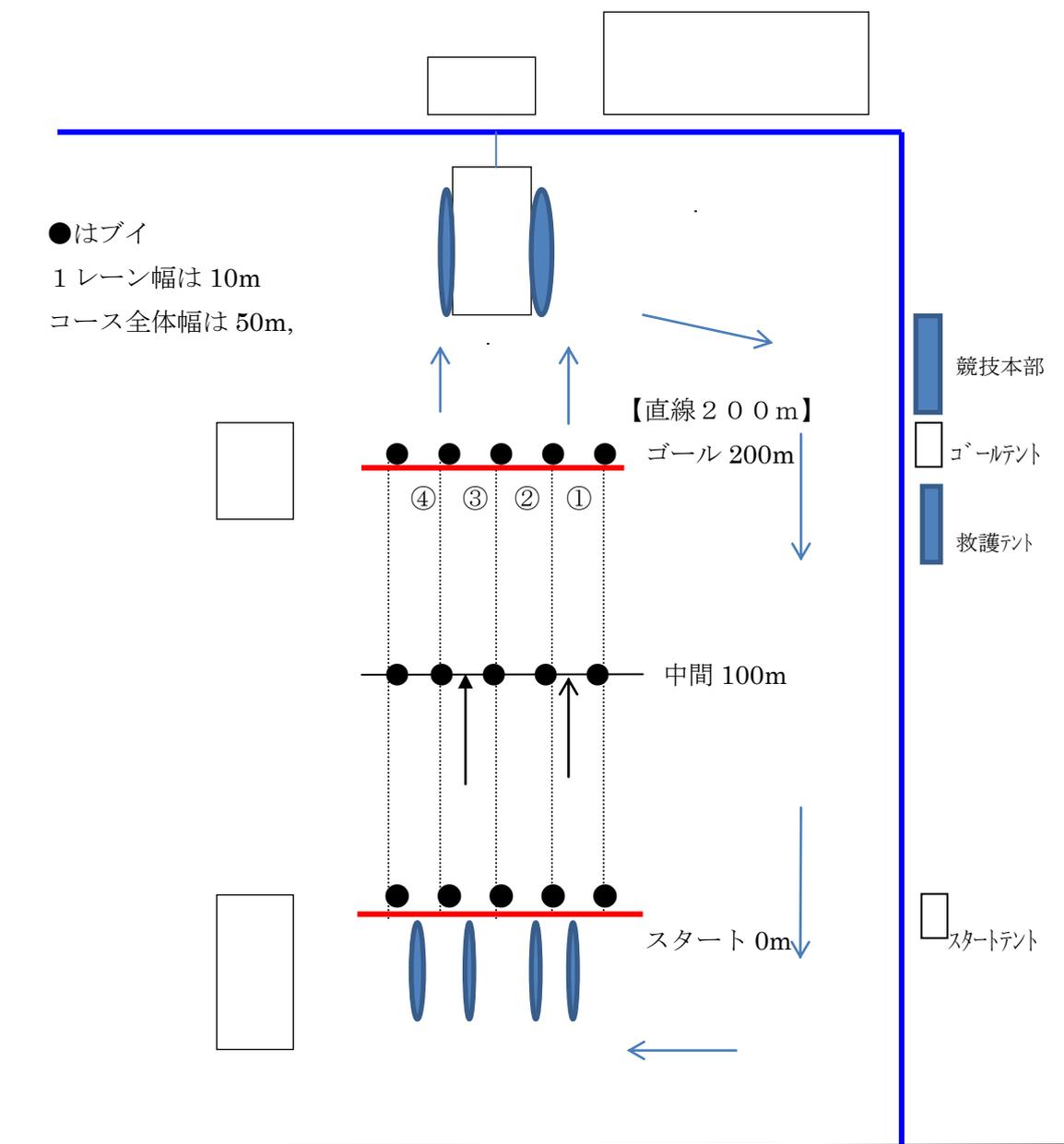
画面上の情報をすべて見るには、「印刷」をクリックします。



日本 > 大阪府 > 大阪市 > 住之江区 > 南港北 > 2丁目 > 1



## 第2回ATCドラゴンボート大会 会場レイアウト図 (案)



## 第2回ATCドラゴンボート大会 競技規則 (一社)日本ドラゴンボート協会

- ① 大会規則は一般社団法人日本ドラゴンボート協会 2015 年度競技規則・規定による。
- ② 競技参加条件は、小学生以上(大会当日)の健康な男女。
- ③ 競技は、雨天決行が原則であるが、競技委員長は、選手の安全等を考慮し、レース種目・時間の変更、  
人員の減員、中断・中止等を決めることが出来る。この決定は最終のものである。
- ④ 競技種目は、オープン(男女を問わない)1種目とする。
- ⑤ 競技人数は、1クルー12名(太鼓手、舵取り各1名、漕手10名)とするが、欠員のある場合は太鼓手、舵取りを含め、10人以上でなければならない。
- ⑥ レースに必要な、艇、パドル(マイパドル使用可)、太鼓、舵は主催者が用意したものを使用するが、競技に支障あるか否かを出艇前に点検することは、選手の義務である。出艇までに、競技委員会が重大な支障があると認めた場合、艇などの用具変更を認める場合がある。マイバチ・マイパドルの検定は監督会議終了後、大会当日は予選終了時まで行う。
- ⑦ クルーは招集場にて資格審査を受け、配艇係が割り当てた艇に乗船しなければならない。
- ⑧ 競技レーンは互いに平行し、各クルーは決められたレーンを守らなければならない。レーンを外れたクルーは「失格」となる場合がある。他のクルーの水路妨害や衝突等を避けるため、レーンを外れた艇の責任は問わない。
- ⑨ 100 ㊦地点までの「衝突」「転覆」「水路妨害」などの「事故」については、再レースを行う場合もあるが、それ以降の「水路妨害」「衝突」「転覆」「コースアウト」等による再レースは競技運営時間上極力おこなわない。100 ㊦を超えて衝突があった場合は、その原因を起こしたクルーは「失格」とする。
- ⑩ 乗艇は、出場登録した選手のみが乗艇できる。違反した場合は失格とする。選手の交代員は監督会議までに書面により申し入れ、変更することが出来るものとする。

### ◇安全対策・競技規則

#### 安全対策について

協会、主催者とも、安全の確保については、真剣に対応策を考えております。選手の皆さんも、自分のこととして考えてください。

#### ◇クルー

##### ① 安全主任(指揮者)

乗艇中の事故に備え、太鼓手と舵取りの2名を安全主任(指揮者)と決める。また、メンバーはその指示に従って行動すること。自己管理を徹底することにより事故を防止できるので、競技出場予定者は、体調管理、心の準備をしておくこと。特に、給水、トレーニング、ウォームアップ、睡眠、飲酒、喫煙、ルール等を熟知し遵守すること。また、競技開始以前から終了までの間、選手は飲酒厳禁(クルーメンバーの

中で1人でも飲酒が発見された場合は、チームを失格処分とする)、招集場については、禁煙とする。

## ② バディシステム

万一の事故に備え、クルーは乗艇前、漕席を決め、隣席同士でバディを組み、前後の選手も確認しておき、互いの無事存在を素早く確認できるようにすること。

## ③ 転覆時の対応

本大会で使用する艇は、安全性は高いが、万一転覆等で全員が落水したときは、チーム安全主任は全員の指揮を執ること。

艇自体に浮力があるので、艇につかまり(全員艇から離れてはならない)、全員の安全を確認し、救助を待つこと。

## ④ フローティングベスト(FV)の着用義務について

JDBAが主催、主管する「ドラゴンボート競技大会」に於いては全ての参加選手は、フローティングベストを着用しなければ乗艇を認めない。使用基準として、浮力は、7kgs以上のフローティングベストしか使用してはならない。格納型(自動膨張式・手動膨張式)の使用は認める。ウエストベルト式のフローティングベストの使用は一切認めない。着用義務違反チームは失格となる。

## <服装規定>

・競技に着用する衣類については、**安全対策上「肘(ひじ)」「膝(ひざ)」が完全に露出する衣類**の着用を推奨する。

## ⑤ マイパドルの使用

【JDBA】公認検定に合格したマイパドルの使用を認める。マイパドルの公認検定申請は公式練習会会場および大会当日午前 8 時から予選終了時まで検定場所で受検すること。それ以外では行わないので注意のこと。

## ⑥ クルーからの合図

レース中事故が発生し、レースを続行できない場合は、漕手の多数がパドルを頭上に揚げ、審判に合図する。

チーム安全主任の指示で必要な処置を行う。状況により、停艇もしくは大会役員の指示により乗艇場等へ回航する。

この処置を怠ったり、審判の停艇合図を無視し、レースを続行したりしてはならない。失格の対象とする。

## ⑦ 審判艇からの合図

審判艇からの停艇合図等はホイッスル、エアホーンで行うので出場クルーはこれら器具の使用を禁止する。

## ⑧ レース続行

落水者発生の場合、クルーのみの力で自艇に戻り、負傷の有無を確認し、審判の指示があればレースを続行してもよい。

## ⑨ 救急処置

大会会場内で、競技関係者が、救急を必要とする事態発生の場合、直接119番するのではなく必ず競技本部に届けること。必要な処置(救急車の手配等)をする。クルーメンバーは必要により、事故者の親しい友人、家族の中から、付き添い者、当面の資金等手配すること。

## ⑩ 損害賠償の請求

故意に艇を転覆させたり、貸与パドルや艇を破損させたりした場合、そのチームはその場で退場処分とし、以後の出場を認めない。またこの行為による損害について、主催者はチームに損害賠償を求め、退場等の処分はチーム及び個人にも及ぶものである。

## ⑪ 失格・退場

レース中、いかなる理由でも選手間の暴力行為、役員への暴言、公序良俗に反する行為を禁止する。本協会と競技会の品格を汚す言動や不正な行為があった場合、当該チームにペナルティカード(イエロー・レッドカード)を発行し、失格・退場また除名処分とする場合がある。その処分は、個人のみならずチームにも及ぶ場合もある。

## ⑫ 抗議

判定に異議ある時は、各クルーのキャプテンまたは監督のみが抗議できる。成績発表後 15 分以内に競技委員会委員長宛ての文書(書式自由)と供託金 3 万円を添えて、競技本部に申し立てること。抗議を受けた場合は、審判長を中心にレース結果を精査し、できるだけ早く回答する。抗議が認められれば、そのレースの順位変更、再レース等を各チームに命じることがある。また、供託金は払い戻す。抗議が認められないときの供託金の返金は行わない。この供託金の処置は、主催者で別に決める。

## ⑬ 直訴

競技委員会の判定に対する抗議は、監督がレース結果の決定通知を受けて 20 分以内に「上訴審判」に行うものである。その必要事項は、前項に準じ、さらに供託金 3 万円を必要とする。「上訴審判」の決定は一審最終である。

以上の判定があった際、この結果を不服として、次レースの棄権や表彰式のボイコットをしたときは、全成績発表を最下位、失格処分(チーム名抹消)とし、当該チームの次年度以降の出場を認めない。この処分は、個人のみならずチームにも及ぶものとする。

## ⑭ 免責

主催、後援、主管、特別協賛、協賛、協力の各団体は、参加者に対し、応急処置以外の責任は負いません。健康と怪我等の防止に留意し、各自の責任でご参加ください。また、安全上ペースメーカー装着者は参加できません。また、①心臓に問題がある②運動中に胸の痛みを感じる③めまいのためふらついたり気を失った④血圧、心臓の薬を飲んでいる⑤骨や関節に問題がある方は必ず事前に医師の診断を受けてその指示に従ってください。

また、会場内での破損、紛失、盗難などに対しても一切責任は負いかねますので、貴重品は身

につけるなど手荷物の管理には、充分の配慮をお願いいたします。

※本イベントで撮影した写真などを、主催者以下関係各団体がそれぞれ発行する新聞、広報誌、インターネットの記事や広告、または放送に使用する場合や撮影した写真を販売する場合がございますので、各チーム、各選手はあらかじめご了承の上、出場してください。

## ドラゴンボート大会参加の皆様へ

(一社)日本ドラゴンボート協会競技本部より

☆一部競技規則と重複しますが、安全で、活発、楽しいレースを行うため、よく理解しておいてください。

(一社)日本ドラゴンボート協会 理事長 櫻井 顕一

### ◇審判組織と役割

競技中の審判組織と役割は次のようになっています。

#### ●発艇員

スタートの発艇員であり、審判です。フライングの監視はこの部署の専管事項です。最初にフライングがあった場合は「肉声」で停船を指示し、再レースを行います。2 回目はレースを続行させ、フライング艇は当該レース最後着とします。**本年よりスタート 1 分前のコールは行わない。**

※ スタート時にパドルを水中に浸けても違反とはなりません、パドルリングするとフライングとなります。

#### ●100 ㊦審判員

スタート後、100 ㊦以内で「衝突」「転覆」が発生した時は、発艇員、水路審判、選手に赤旗を揚げ、左右に大きく振り合図します。太鼓手や舵取りは、この地点での確認をしてください。無事全艇通過後は白旗をあげます。

#### ●水路審判員

水上のボート上で、スタート時はレーンの後方に待機します。競技中に規則が遵守されているかを監視します。100 ㊦地点までは 100 ㊦審判と協力し、「衝突」「転覆」があった場合は「赤旗」をあげ、全艇停船させ再レースの通告などを指示します。

100 ㊦地点からゴール地点まで規則違反があれば審判長に「赤旗」を振って合図し、レース終了後、審判長に状況を報告する。尚、競技中のレース艇に不測の事態が発生した時は、審判艇に乗艇する安全委員と協力し事故発生クルーに対して安全上の指示を行います。

#### ●決勝審判員

順位の判定をする。計時員の計測した記録、順位を確認し、審判長に回送する。

## ●記録判定

決勝線延長上に特殊なカメラを設置し、全艇のゴールを撮影し、着順判定を補助します。

## ●上訴審判

判定や競技運営上、規則で判定できない高度な判定を行います。失格、除籍等の最終判定機関です。

## ●羊犬艇(シーブドッグ艇=モーターボート)

水路外ゴール地点付近でレース運営の円滑をはかるため、レース終了後の各艇を、速やかに安全に、乗艇場へ導くのが主任務ですが、前方から水路審判を行い、写真撮影や事故発生時の救助の役割もします。

## ◇その他の役員

### ●招集員

レースに備え、各チームの選手は集合場所(八軒家浜)に、各レース 30 分前に集合。招集員は資格審査(選手登録簿等の照会)を行い、招集場所に待機させます。なお、選手登録簿に記載されていない選手の乗艇は一切認めません。

安全委員と協力して服装などの点検等を行います。(上半身裸では乗艇させない。タトゥーは長袖等を着用し見えないようにすることなど。呼び込み、人員数確認などは主目的ではありません。)会場でのチームの呼び出しはなし。時間内に集合していない場合は失格となります。

### ●安全委員

競技規則に定める安全対策に従って、競技参加者の競技衣類等、競技者の安全に関する検査を行い違反チームと個人に指示及び指導します。

#### フローティングベスト(FV)の着用について

JDBAが主催、主管する「ドラゴンボート競技大会」に於いては全ての参加選手は、フローティングベストを着用しなければ乗艇を認めない。使用基準として、浮力は、7kgs以上のフローティングベストしか使用してはならない。格納型(自動膨張式・手動膨張式)の使用は認める。ウエストベルト式のフローティングベストの使用は一切認めない。違反者は失格となる場合がある。

手袋、履物、敷物、マイパドル、マイバチ、飲酒(レース前、レース中の飲酒は一切禁止)の検査もを行います。

競技中のレース艇に不測の事態が発生した時は、監視艇に乗艇する安全委員が事故発生クルーに対して安全上の指示を行うのでその指示に従ってください。また、審判艇が先に到着した場合は、審判が

指示を行う事もあります。

### ●検定委員

競技参加の全艇の規格を検査・測定し、安全装備の確認とパドル検定、バチ検定を行い違反の有無を確認します。マイパドル等の申請は予選終了まで受け付けます。

### ●配艇員

艇の乗艇場付近で、艇番等を組合せ表に照合し、パドルや艇を配備します。クルーは割り当てられた用具を規定時間内に点検調整してください。原則として、その変更は重大な障害等があると競技役員が判断した場合以外一切要求できません。出艇後は変更の申し入れは不可。

### ※「レース成立」とは

全艇が違反なくゴールし、かつ龍尾も決勝線を越え、そのまま安全に乗艇場へ接岸できると審判長が認め、宣言した時をもって、レース成立とする。よって、ゴール後急激な方向転換等で他の艇に危害を及ぼすなどの行為も「漕路妨害」として失格の対象となる場合があります。成立の合図は決勝審判席で白旗を揚げます。

本コースの特性からゴール後は必ず停船し、艇の安全を確認した後、直進で乗艇場へ戻ってください。レース途中で違反と判定されたチームでも完漕しないと失格(次レース進出を許さない)となります。レース成立時には、白旗を競技本部にも揚げます。その後の抗議等による審議中は赤旗を揚げます。

### ◇発艇の要領

- ① 各艇はスタート地点では、所定の方法で艇を止め、スタートに備えてください。本コースでは、スタート地点よりフローリングスタートを行います。スターターの指示に従ってください。
- ② 発艇員が、チーム紹介と確認のためチーム名とレーン番のコールを行う。
- ③ 太鼓手はスタート準備が完了したら、バチを太鼓上に置き静止させます。漕手は、パドルを水中に浸けてもかまいませんが、「Attention Go!」の時にパドルを動かすとフライングとなります。スタート直前に不都合が生じたら、舵取りが手を挙げる大きく手振るか太鼓手が2本のバチを高く上げて手を振って、発艇員に合図してください。
- ④ スタート1分前に整列終了を認めたらドラを鳴らし、鳴り終えてから30秒以内(直ちの場合もある)にスタートします。
- ⑤ スタート合図は、発艇員の「Are you ready?」「Attention Go!」の掛け声で、大旗の振り下ろしを同時に行います。「Attention」と「Go」の間隔は状況に応じて連続する場合や5秒ほど空く場合があります。
- ⑥ 1回目のフライング発生時は、再スタートします。各艇は速やかに艇を止め、再スタートに備えてください。  
2度目のスタートでもフライングが生じた場合は、レースはそのまま続行させ、フライングを犯したチーム

は、自動的にそのレースの「最下位」とします。フライングしたクルーが完漕しない場合は、「失格」となります。(次レース進出を認めない)。

#### ◇「ATC水域」での競技上の特性による注意

ATC水域は、定期船の乗り場が棧橋のそばにあり、レース中も観覧船等が航行します。

安全面を最大限考慮して、乗艇場からスタート地点へ向かうのは前のレースの全艇がゴールしてからとします。

乗艇後はしばらく乗艇棧橋で待機し、係の指示に従って動いてください。なお、本会場ではドラゴンボートは時計回りで航行してください。ATC岸壁を右側に見て1レーン、2レーン、3レーン、4レーンの順で最大4艇レースとなります。

尚、本コースは距離 200 ㍎で、レーン幅は 8 ㍎とします。

ゴール後は、必ず艇を止めて直進航行で戻ってください。コースの特性から特に 1レーン、2レーンの艇は他船の安全を確認してから棧橋の右側に着岸、3レーン、4レーンは左側にそれぞれ着岸してください。

着岸のタイミングは、配艇員の指示に必ず従ってください。

オープン決勝終了後、優勝から3位までのチームは表彰式に参加してください。

オープン決勝の1-3位チームはゴール後、約3分間の「ウイニングラン」を認めます。

※水面上、棧橋上は全面禁煙。選手村では喫煙スペースを用意していますので所定の場所で喫煙してください。

#### 競技実施要項

- ① レースはIDBF公認 champion 艇を4艇使用。艇及びパドルは主催者の用意したものか、日本ドラゴンボート協会(JDBA)検定済パドル・パチを必ず使用すること。
- ② 定員は、漕ぎ手10人、太鼓手1人、舵取り1人の12人で編成(12人を超える場合は1人につき3000円必要)。太鼓手、舵取りを含めて最少10人以上で編成すること。  
オープン選手権に出場する選手の性別は不問。**決勝戦での舵取りの派遣は可とする。**
- ③ レースは距離200㍎。オープンは予選、敗者復活戦、準決勝戦、決勝戦の順に進行する。
- ④ 参加資格は、小学生以上(大会当日)の健康な男女。

#### ◇ATCエリアでの注意事項

